

(2) 小児糖尿病に見られる身長増加速度の障害について

大阪市大医学部小児科 一色 玄
青野 繁雄

小児糖尿病の臨床においては現在 Mauriac 症候群に見られるような極端な低身長は極めて少なくなつたが、なお軽度の発育障害はしばしば見られている。我々は18歳以下で発症した若年型糖尿病に対する全国実態調査票（男子 632 名、女子 940 名）について身長に関するデータを集計検討した。集計は昭和51年から昭和56年までの6年間に計測されたものに限る、正常対照群としては昭和54年度の学校保健統計による全国平均値を用いた。一部の年齢については厚生省保健統計を用いた。同一年齢に於て2度以上の身体計測が行われている患児については計測年齢、身長をそれぞれ平均して一計測値として処理を行った。

罹患年数と身長の偏差値との関係（図1）をみると低年齢発症群では発症初期より低身長傾向が目立ち、この低身長傾向は身長増加の Spurt のみられる思春期に最も顕著にみられている。これに比し、すでに思春期に入っていると思われる13歳以後の発症者では発症後数年の遅れが見られた後、再び catch up する傾向が見られている。思春期における Spurt は低年齢発症者でもみられるものの、いずれの群においても正常健康者に比べて1～2年の時期の遅れを認めた。又最終身長は低く止まる傾向がみられた。

今回の調査対象からは、身長の偏差と肥満度との相関は明らかでなかった（図2）。今回の調査に用いた調査票からは患児の栄養摂取の実態は不明であったが、指示カロリーと身長、体重を考慮した補正栄養所要量との比をとって身長の偏差との関係を調べたところ低身長を示す者では指示量が過剰となっている者が多く認められた。この結果の意義についてはなお種々の検討を加える必要があると思われる。

☒ 1

SHORT STATURE IN RELATION TO AGE OF ONSET AND DURATION

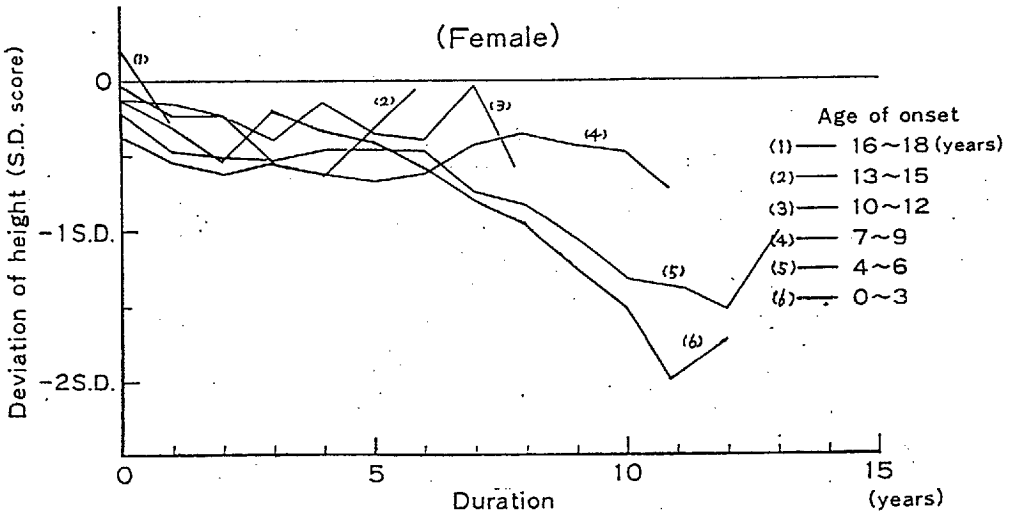
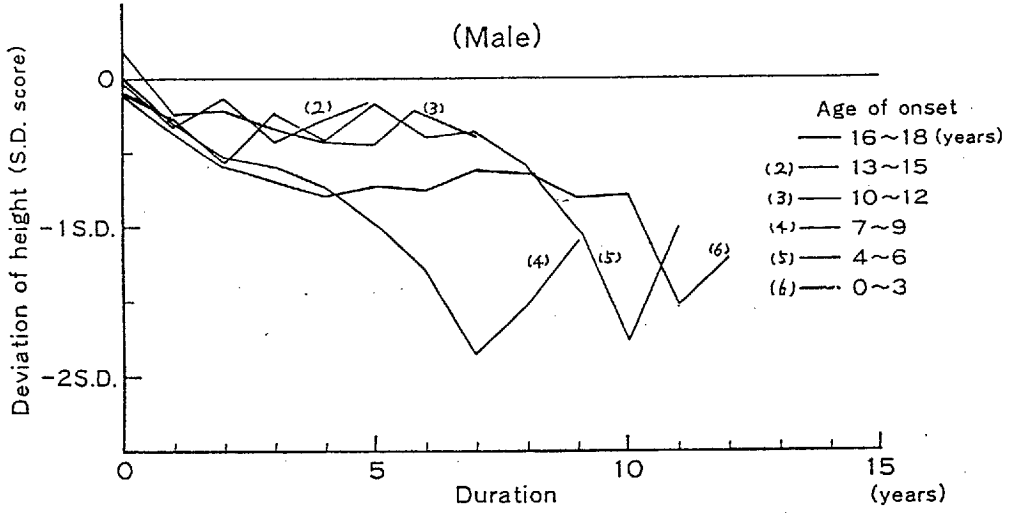
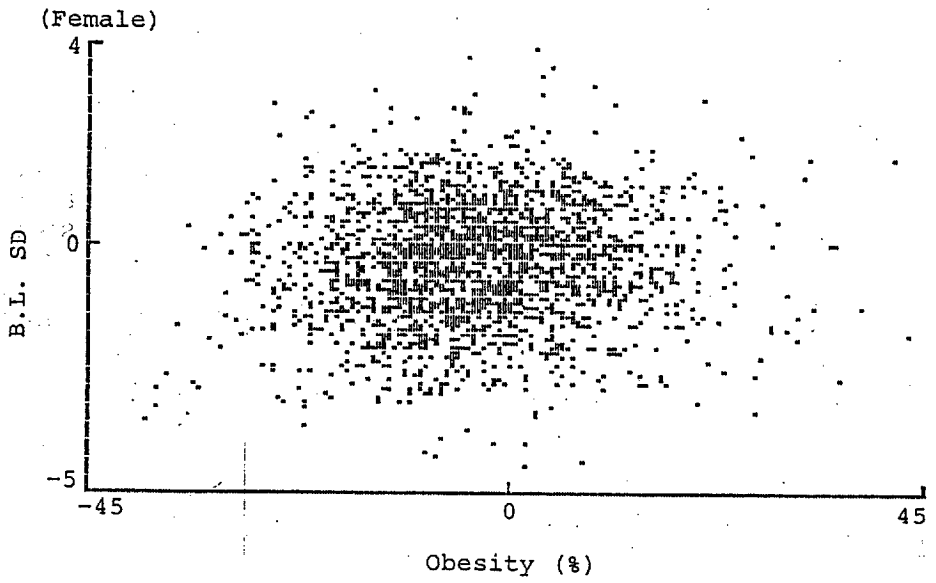
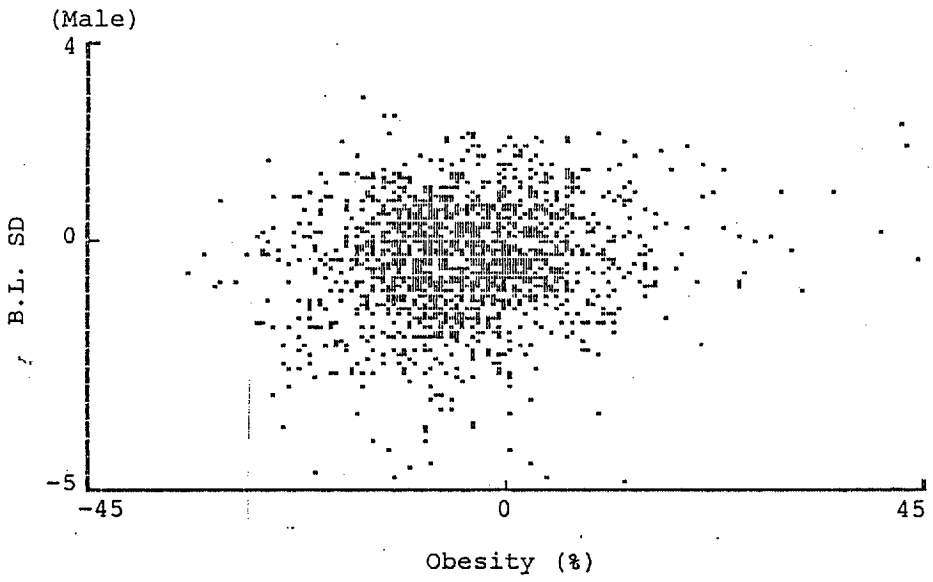


图2





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



小児糖尿病の臨床においては現在 Mauriac 症候群に見られるような極端な低身長は極めて少なくなったが、なお軽度の発育障害はしばしば見られている。我々は 18 歳以下で発症した若年型糖尿病に対する全国実態調査票(男子 632 名, 女子 940 名)について身長に関するデータを集計検討した。集計は昭和 51 年から昭和 56 年までの 6 年間に計測されたものに限る。正常対照群としては昭和 54 年度の学校保健統計による全国平均値を用いた。一部の年齢については厚生省保健統計を用いた。同一年齢に於て 2 度以上の身体計測が行われている患児については計測年齢、身長をそれぞれ平均して一計測値として処理を行った。